



# 日の輝きが変わる 後継者講習会

9月大教会教会長会議  
立教180年9月22日  
大教会長 片山幹太

# 本島通信

発行所 〒763-0223 香川県丸亀市本島町泊268  
**天理教本島大教会**  
電話 0877-27-3321 (代)  
本島通信編集室 R.170924-0928-20  
奈良県天理市指柳町270-1  
本島詰所 〒632-0093  
電話 0743-63-1571 (呼)  
Email: news@honjima.com  
発行部数: 933部 (先月比-2)  
大教会 朝夕おつとめ時間  
【10月1日～10月15日】  
朝づとめ 午前6時30分  
夕づとめ 午後6時30分  
【10月15日～10月31日】  
朝づとめ 午前6時45分  
夕づとめ 午後6時15分

後継者講習会が始まりました。本島大教会といたしましては、3次にわたって約40名が受講を終えているところです。

受講生の皆さんには最後に無記名のアンケートに答えて頂いています。その中から一つご紹介します。

「第1講と第2講で聞かせて頂いた『日々の身近なところからの陽気ぐらし』と『陽気ぐらしの実践』のお話が特に心に響きました。変えたい状況に対して、相手に変わることを求めるのは難しいですが、自分を変えることはできる。ということには分かっているつもりでしたが、実際には気持ちが沈む毎日でした。そこに講義で『これは陽気ぐらしなのかな?』という視点を与えて頂き、目が覚めるようでした。幸せは外にあるのではなく、内にある。喜ぶ心に切り替えるスイッチを入れることが大切だと感じました。喜んで通る姿を(教祖に)見て頂くこと。成つてく

ることを喜べるよう、心を切り替えることを決意しました。」

皆さん、このような感想をたくさん書いて下さっています。

後継者講習会は、20歳から40歳までのようばく、信者の一人ひとりに、信仰の大切などところを教えて下さり、後々陽気ぐらしの用材となる種をちゃんと心に植えて頂ける、そんな講習会だと思えます。

講習会は3月まであります。呼び掛けが届いていない人、まだ迷っている人、いろいろあるかと思いますが、どうか本部長の後継者講習会に一人でも多く、将来の担い手になってもらいたい人を送り込んで頂きたいと思えます。

正直言って、ほとんどの人は皆、初日の表情が暗いのです。大変なところに来てしまったなあという顔をしています。早く帰りたいと思っている人もいます。

ところが最終日になると目の輝きが

違います。充実感たっぷりです。帰ってきます。どうか安心して講習会へお送り頂きたいと思えます。

真柱様、大亮様にはこの後継者講習会のすべてにおいて、お言葉をお聞かせいただきます。すべての受講生において、私達もすべてにおいて後継者講習会の受け入れと丹精に努めさせて頂きたいと思えますので、よろしくお願いたします。

最後に、詰所では朝食に補食を付けさせて頂いておりましたが、様々な都合から先月より出しておりません。本部長も朝食はご飯と味噌汁が基本となっておりますので、ご承知お願いたします。

次に、来月の大教会秋季大祭に、宮森与一郎世話人先生がお入り込み下さいます。大勢のご帰参をお待ちしております。

以上、ありがとうございます。

(文責: 本島通信編集室)

**本島大教会秋季大祭**  
世話人・宮森与一郎先生ご巡教  
10月22日午前9時執行

**人材育成講習会**  
講師・井筒梅夫先生(本部長・布教部長)  
10月25日午後7時より本島詰所

# 子弟育成に心を尽くし をやの思いにお応えしよう

大教会准役員

よしだはるお  
吉田晴雄

ただいまは、この世界の治まりを祈念し、大教会の9月月次祭を陽気に勇んで勤めさせて頂き、誠に有難いことと存じます。

御指名を頂きましたので、ただいまより、神殿講話を務めさせていただきます。

しばらくの間お付き合い下さいますようお願い申し上げます。



昨年の教祖130年祭の神殿講話で、真柱様は「130年祭を勤め終えて、これからの歩み方を思索するとき、何にもまして、道の将来を担う人材を育成する必要を強く感じるのであります」とお話し下さいました。

このお言葉を受けて、本部布教部では、昨年春に「教会長子弟育成プロジェクト」を立ち上げました。これは、縁あって教会に生まれ育った教会長子弟を全員、教会になくはならない人材になるよう育てるとともに、教会長夫妻・後継者夫妻に子弟育成への強い意識をもってもらうことを目的に、各直属教会で、本年1月より3カ年を仕切つて、将来にわたる育成体制の基盤を作ることを目指しています。

本島大教会では、3カ年の取り組みのスタートとして、「教会長子弟を一

人残らず道につなげるために」というテーマを掲げて「教会長子弟育成者研修会」を4回実施し、多くの方にご参加頂きました。

また、本年8月28日から後継者講習会が始まり、来年3月まで20歳から40歳の若者が親里ぢばぢばに集い、「日々の陽気ぐらしの実践」をテーマに、教えに基づく生き方を学んでおります。ただ今はまさに、道の後継者育成の句であります。

## 伝える努力・丹精する努力が大切

ところで、私はかつて道の先輩から「自分の思いを叶かなえようとする信仰などしてはいけない。をやの思いを叶えさせて頂く」という信仰をするんだよ。親神様、教祖、真柱様の思いに沿い、その親の思いにどこまでも応えさせて頂きたいという思いで道を通らせて頂くんだよ」と教わりました。聞かせて頂いた当初は、「そんなものなのかなあ」と思いました。また実際には、なかなかその通りには実行出来ません。しかし、その言葉は心に強く残っております。

さて、明治37年8月23日おさしづに、「これまでどんな事も言葉に述べた処が忘れる。忘れるからふでさ

きに知らし置いた。ふでさきといふは、軽いよつで重い。軽い心持つてはいけん。話の台であるう。取り違いありてはならん。」

とあります。

ここ数年朝夕おつとめの後に、おふでさきを讀ませて頂いていると、時折り、お道の者はありがたいなあと感じることがあります。それは、この世な人間、ない世界をお創りくださった親神様が、おふでさきを通して、私たちに直接その思いを語り掛けてくださっているからであります。

元の神、実の神である親神様のお言葉を読ませて頂ける有難さ、人間のをやが語りかけて下さるお言葉に触れさせて頂くことの出来る幸せ、私たちお道の者はそれだけで、ものすごい得をしている、すごいことだと感じずにはおれません。

本島大教会の成人目標の一つに「み教えを学ぶ」とあります。それで、本千代分教会では、なお一層をやの思いに近づかせて頂きたいと、今年から朝夕おふでさき、拝読の折に、上田嘉成著「おふでさき講義」や上田嘉太郎著「おふでさき通解」といった解説書を1首1首読ませて頂き、理解を深めさせて頂いております。

おふでさまに、

月日にハセかいぢう、ハみなわが子 たすけたいとの心ばかりで

(第八号4)

月日にハセかいぢううハみなわが子 かハいい、ばいこれが一ちよ

(第十七号16)

にんけんも共かわいであるをがな それをふもをてしやんしてくれ

(第十四号34)

にちくくをやのしやんとゆうものは たすけるもよふばかりをもてる

(第十四号35)

と、あります。

おふでさまには、親神様の子供可愛  
い一条の親心が満ちあふれております。

その親心あふれるお言葉に接することにより、この神様が私たちの本当のをや、なんだと真底思えて、有難くて尊くて、お道の信仰をさせて頂く幸せや喜びを感じることも、届かぬながらも、やの思いに素直に添わせて頂きたい、ほんの少しでも出来るところからを、やの思い、真柱様のお言葉にお応えさせて頂きたいと思っております。

お道を通して頂ければ頂くほどに、この道にお引き寄せ頂いて有難かったなあとこの思いは深まります。お道を通して頂く年限を重ねれば重ねるほど

に、教会の子供として生まれてきて良かったなあ、としみじみ感じさせて頂きます。

さて、3年ほど前、私の弟の次女が結婚しました。その姪は、三日講習会をI・II・III、と受講するにつれて成人してくれました。

結婚式を終えて4か月後の11月9日、初めてご主人を、教会の月次祭に連れてきました。青年会が提唱する初参拝です。私は、「よく来てくれました」と挨拶し、祭典後お守り所に彼を呼んで、

初代・2代会長や前会長夫妻の写真の前で、吉田家の入信のいわれを少し説明し、あとは部屋に座っていた部内の会長さんにお任せしました。

その夜、ふとんの中で、家内から「お父さん、貴行さんにお話を取り次ぎましたか？」と聞かれました。私は「少しお話しして後は、部内の会長さんや信者さんに頼んだ」と答えましたら、家内から「初めて参拝に来て下さった方を、部内の会長さんや、他の人に任せていいんですか？ ひのきしんは他の人に任せておけば良いんです。お話を取り次いで丹精するのが会長の務めだと思いますよ」と言われてしまいました。家内の言葉が結構、私の心にこたえました。

それで、この話を翌月姉の布教所でしましたら、お嫁さんが(この方はもととは未信者で結婚して別席を運びようばくになられた方です)「私が結婚して教会の月次祭に参拝に行くようになって、前会長室にご挨拶に伺うとおじいさん(前会長)、必ずいつも一言神様のお話をして下さい、有難かった」というのです。そして姉も義兄も、「お父さんは、よく神様のお話しをしてくれたよね」と言っています。

その言葉を聞いて、ああ今まで、私はお道を伝える心や丹精する心に欠けていたな、逃げていたな、と大いに反省しました。

父を思い出す時、父はどんな人とお話をしても、相手がたとえ未信者の方でも、最初はその人に合わせて世間話をしているのですが、最後は必ずお道の話に切り替えて教えを取り次いでいた姿が浮かんでくるのです。すごいなと思っていました。

私はどうかという心の中では、この人にお道の話を取り次がなくてはと思うのですが、お話をうまく伝えられないもどかしさを感じながら、つい遠慮してしまう、心で逃げてしまう自分がありません。ただただ不甲斐なく、真実の足りない自分を申し訳なくお詫

びしている時があります。

大教会長様が、教会長子弟育成者研修会の閉講挨拶の中で、「伝えなければいけないことは、伝えることです」とお話し下さいました。やはり、伝える努力・丹精する努力が大切だと思わせて頂きます。親神様の思召やお道の素晴らしさを伝えさせて頂く力をつけたいと願う昨今です。

### 身上・事情を通してお手引き

さて、私には上から長女・次女・長男と3人の子供がおります。今日は次女について少しお話させて頂きます。次女は現在31才であります。

今から6年ほど前のある日、娘から「お父さん、家に連れて来たい人がいるんだけど、連れて来て良いですか？」と打ち明けられました。お付き合いしている人がいる、ということ全く知りませんでしたので、非常に驚きました。「どんな人だ」と聞くと、「同じ職場の人で、優しい人です」と言いました。「結婚を考えているのかい」と尋ねると、「ハイ」と答えるので、反対するわけにもいかず、会うことにしました。

結婚を前提にしているというので、お会いしたとき相手の方に「この家を

見て分かるだろうけど、ここは天理教の教会だ。寛子は教会に生まれようと思つて生まれてきたのではなく、神様の深い思いがあつてこの教会に生まれて来たのだ。教会に生まれた子は神様の御用をする役目を持つて生まれてきている。だから、結婚しても神様の御用、教会の御用をさせるよ。それでいいかい。」と念押しして結婚を認めました。

ですから結婚するとすぐに、神様をお祀りし、毎月月次祭を勤めさせて頂きました。

そのうちにご主人もよう、よくなくなつて下さいました。

その次女の寛子が、平成26年7月頃、1歳になつてまもない娘に授乳していて乳房にしこりがあるのに気が付きました。それで、乳がんを心配し、病院で診察を受けると乳腺線維腺腫（しゆうせんせんせいせんしゆ）と診断され、「半年に1度は検査を受けて下さい」と医者に言われました。

翌平成27年10月、次女が妊娠したこともあり、前回とは違う病院で2度目の検診を受けると、そこでは「このしこりは繊維線種でも乳がんでもない」と言われ、少し安心しました。

そして、昨年(平成28年)主人の転勤で名古屋から千葉の自教会近くに転居

し、前回の検査から1年余り経っているのですが、次女出産後、乳房のしこりはまだありましたので、昨年11月に教会近くの総合病院で乳がん検診を受けました。その時エコー検査で引掛かり、同病院の「乳腺外来で精密検査を受けて下さい」と言われました。

そこで、12月10日精密検査の日に、私と家内も運転と孫の子守りを兼ねて、予約していた総合病院の乳腺外来に行き、娘は超音波検査、マンモグラフィ検査を受けました。それですぐに帰れると思つていましたら、細胞診検査も受ける必要があると言われ、次の診察や検査に呼ばれるのをずっと待つていました。

夕方5時半に予約受付し、夜8時30分を過ぎ、寛子より後に受付した他の患者さん達がどんどん先に帰り、寛子一人になつてしまいました。さすがに何かあるなと思ひ、最後に娘が呼ばれしばらくして青ざめて診察室から出てきました。

娘は「今までできていたしこりは、右左とも問題なかったが、しこり以外のところに、エコーやマンモグラフィで見えた時に、黒い影がある。針を刺さないとはつきり分からない。白黒はつきりさせないといけない。細

胞診、右胸に針を刺して注射器で細胞を取り、それを精密検査に出します。次回24日に検査結果を聞きに来て下さい。その時も、帰りは今日ぐらいになるでしょう。」とのことでした。

娘は、乳がんではないかとの恐れを感じてか呆然自失の状況で、不安そのものに見えたので、私はこのままではいけないと思ひ、「寛子、明日から24日まで、2週間教会に日参し、ひのきしんを一つして帰りなさい」と言いました。

娘が日参を始めた翌々日は、ご主人が休みだったので、主人と参拝に来ました。そして、2人でおつとめを勤めた後、白衣に着替え、ひのきしんとして神殿上段のお掃除を始めました。私は主人を呼んで、「駒は回っている」と倒れないが、止まると倒れてしまう。10日の診察の時、寛子があのままで倒れそうだったので、日参をすすめ、ひのきしんをするように話したのだ。ご主人と一緒に支えてくれるほど安心はない、ありがとうとお礼を申しました。主人は、休みの時や遅番の時、娘と一緒に参拝に来ておつとめ後ひのきしんをしてくれました。娘はその後、毎日3軒に、いがけに歩いていました。

娘のおたすけをしていてふと感じたのですが、私自身、他の人のおたすけと、我が子にかけるおたすけでは、ずいぶんと真剣さにおいて、温度差があるのに気が付きました。他の人のおたすけで、どれほど真実を出し切っているのかと、深く反省させて頂いた次第です。

また、おちばがたすけの元ですから、検査結果を聞く3日前に、寛子は乳幼児2人を連れて家内と一緒におちばがえりをし、親神様・教祖にお願いをさせて頂きました。私は、大教会の月次祭を終えて翌23日に天理に入りました。ところで、大教会長様がかつて三代会长様のお話をされた中で、「三代会长様はいろんな事情があつてもいつも『これが結構なんや』と繰り返し仰つていたそうです」とお話されてきました。私はなかなかそこまではいきませんが、私自身にも結果に対する不安が少し残つていたので、これではいけないと思ひ直し、検査結果を聞きに行く前日の23日夜、天理から娘にメールを送りました。

「この度の寛子へのおしるしは、『神一条の精神を定めよ』という神様からのお知らせではないかと思ひます。神一条ということ、また後日お話ししま

す。神一条の精神を定めて下さい」とメールを送りました。

すると寛子から返信がきました。娘も神様のご守護を信じて必死だったんだと思います。メールには、「わかりました。神一条の精神を定めさせていただきます。私も神様の前で心定めをさせていただきます」とありました。

24日、私はおぢばにおりました。大丈夫だとは思いましたが、正直申し上げて、検査結果を聞くまでは、娘のことが心にかかっていました。

12月24日、寛子は主人と病院に検査結果を聞きに行きました。夕方5時半の予約です。そして、夜6時15分頃、娘から私に電話があり、嬉しい声で「大丈夫だった。乳がんではなく右胸の影は、水の塊であった」とのことでした。本当に嬉しいことでした。「神様が働いて下さった」と思いました。

その後、お願いとお礼はセットですが、縁あって教会に生まれた娘が教会長子弟として生涯、教会の御用の出来る人材になってくれる心定めが出来て有難いと思います。

身上のしるしのお陰で、娘も信仰のスタートラインに立つことが出来、現在も毎日教会に参拝に来ては、一つひのきしんをし、3枚チラシを配って帰宅しております。また、本千代では毎月17日と28日をにいがけ日と定め、戸別訪問や神名流しをさせて頂いておりますが、寛子も子供を連れて参加し、勇んで歩いております。

「身上・事情は道の華」と聞かせて頂きますが、このたびも、身上は神様の親心こもる慈愛の手引きだと深く感じさせて頂きました。そして、3代会長の様の「これが結構なんや」という言葉の意味合いを後で分らせて頂いた次第です。

教会長子弟育成者研修会での大教会長様の閉講挨拶にもありましたが、おぢばから子弟育成というお打ち出しを戴いたということは、大教会長様の言葉を借りれば、「どこの教会も子供を道につなげやすい、神様・教祖からの風を頂いている」ということだと思います。

娘の身上のお知らせを通して思いましたが、今の旬に子供に見せられることは、全て人材育成につながっているように思えてなりません。成人のために、その子が道につながるように神様

から身上や事情を通してお手引きを頂いているのだと思います。

大教会長様はあるとき、牧野先生と私に「教会長子弟育成のためには、明確な目標が必要だと思えます。それが修養科であり、もし期間の関係で行けない場合は三日講習会を受講することです。修養科は教会長子弟が行かなければならない所であり、心を磨く所です」と、お話しされました。子弟を育成していくための手立てとしての目標は、修養科であり、三日講習会であること、心に入れておきたいと思えます。

### 人材育成の旬、講習会への参加を

さて、教祖130年祭の神殿講話で真柱様は「あらためて足元を見つめ直し、長い目で道の将来を担う人材を育てる、また、増やす活動に腰を据えて取り組まなければならぬと思うのであります」と、今後の歩みをお示しくだされました。また、本年の春季大祭では「まずは家族をはじめ、身の周りの人たちにしっかりと信仰を伝え、たすけ合う生き方を実践して、土地所に陽気ぐらしの手本を示していただきたいと思います」と、お話しくださいました。

本島大教会につながる私たちみんな

が、真柱様の思いに沿い、この素晴らしいをやの教えを家族や身の周りの人に伝え、一手一つに動かさせて頂けたら先がとてもしみになります。

人材育成のこの旬に、お互いに責めることなく、甘んじることなく、そして、あきらめることなく、まず私たち道の先達が、どうでもこうでも次の代へ道につなぐという心を定め、ご恩報じや理づくりに励み、大教会・上級・部内、みんなで助け合って教会長子弟や若い方々を育成させて頂きたいと思えます。

最後になりますが、10月25日午後7時から、本島詰所講堂におきまして、本部長井筒梅夫いづつうめお布教部長を講師にお招きし、人材育成講習会を開催させていただきます。

これは教会長子弟育成者研修会の全受講者をはじめ、布教所長夫妻やようばく、信者の方々を対象に、それぞれの教会のこれからの人材育成、丹精の手立て、後押しとして実施させて頂くものです。是非ともこの人材育成講習会に積極的にご参加くださり、教会の未来を切りひらく一助にいただきたいと思います。

ご清聴誠にありがとうございます。

(文責・本島通信編集室)

# 九月月次祭 祭典役割

**獻饗長** 片山好治  
**伝供** 老木邦光・雲庵道延・窪田靖明・永山晴明・吉田晴雄・岡崎八十則・平井真治郎・向所隆文・永島宗行・大上道徳・吉田知彦・高島栄造・太田昭一・宮路和徳・沖野一道・奥村龍夫・茶屋原良昭 位下道治 渡部友見  
 伊東康成・橋口徹・香川秀孝・鎌田典夫 村田輝夫・山下英久・阿部盛夫・溝口晋太郎・上野作也  
**雅楽奉仕者** 文園育則・高垣光治・雲庵春彦・大矢万三・片山直明・長尾海和・岩橋守行・鎌田康典(順不同)

神殿講話	胡三味線 弓線	小琴鼓 雲庵道延 西山道教 永島宗行 向所暉美子 原口和子 井上みつの	太鼓 井上哲 吉田知彦 原口実 奥村龍夫 伊東康成 篠原久子	拍子木 岩橋慶三 菅岡繁幸 宮路和徳 沖野一道 奥村龍夫 伊東康成 篠原久子	ちやんぼん 高島清弘 岩橋竜造 田中丸勝也 溝口晋太郎	てをどり	池田さわみ 梅木澄代 菅岡和美	会長夫人 岡崎むつゑ 宮武有為子	寺本管一郎 吉田晴雄 山下英久 花田菊子	片山好治 篠原丕王 高島栄造	大教会長 牧野道昭 岡崎八十則	老木邦光 大上道徳 大西剛	片山勲 窪田靖明 平井真治郎	岡崎俊郎 永山晴明 太田昭一	座りづとめ	てをどり前半	てをどり後半	祭主	大教会長	座りづとめ	てをどり前半	てをどり後半
																		指図方	片山勲	西山道教	岩橋竜造	
																		鷹者	寺本教生	賛者	篠原丕王	

## 九月月次祭祭文

立教百八十年九月二十二日

この神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教本島大教会長片山幹太慎んで申し上げます。

親神様には子供可愛い一条の親心から、昼夜を分かたずお見守り下され、よろづ委細の元の真実を明かし、陽気ぐらしへの道へとお連れ通り下さいます限りなき御守護の程は誠に有り難く勿体ない限りでございます。

わけてもこの月一日、真柱継承者中山大亮様と布恵様の結婚式が御存命の教祖の御前にて芽出度く執り行われましたことを私共一同心からお慶び申し上げます。

中でも本島の道につながるよぶく信者一同は、この句を戴いて、ぐばに心を寄せ合い、新たな勇み心をもって人材育成活動に励ませて頂いております。

その中にも、今日の吉き日は当大教会の月毎の御祭日でございますので、只今から役目に与る奉仕者一同心を一つに合せて座りづとめ・てをどりを陽気に勤めて九月の月次祭を執り行わせて頂きます。

御前には秋のたたずまいを感じる中、大勢の道の子達が今日を樂しみに帰り集い、相共におうたを唱和して、日頃言葉に尽くせぬ御恵みに御礼申し上げ、更なる御守護にお縋りする真実の状をお受け取り下さいます親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます。

私共は年頭に掲げました「成人目標」に心を揃え、自らが「御恩報じ」の意識を高め、道の急務であります後継者の丹精に一人ひとりが実践に努めさせて頂く決心でございます。

又この月は、にをい、がけ強調の月であり、月末の三日間は全教一斉にをい、がけ「デー」が実施されますが、教会長を先頭に全よぶくが一人でも多くの人にをい、の心を伝えさせて頂きたいと存じます。

何卒、届かぬ点は幾重にもお仕込み下さいます、時句の人たすけの輪がより大きく広がり、たすけ道場であります教会の内容充実と共に陽気ぐらしの実践の足取りを一段と進めさせて頂けますようお導きの程、一同と共に慎んでお願い申し上げます。

(原文のまま)

**入社祭** (立教180年9月22日)

▼本静濱△佐々木淳 [計1名]

9月22日(金)  
【香川県丸亀市】

天候 雨一時曇

最低気温 18.5℃

最高気温 21.8℃

平均気圧 1012.5 hPa

平均湿度 87%

平均風速 1.4 m/s

日照時間 0.0 時間

降水量 6.0 mm

※降水量は一日の総雨量

## 育成に役立つ講習会

本島学生担当委員会(池田 さわみ委員長)では9月24日午後、本島詰所において「育成に役立つ講習会」を実施。本部学生担当委員会より田邊幹善先生をお招きし、18名が受講しました。

今回の講習会では、相手の話を聴く、相手の様子を観る、相手に話をする3要素のうち、特に「聴くことの大切さ」と「みるについて」の講義が行われました。



「きく」ことには「訊く」「聞く」「聴く」の3種類があり、その中でも育成には「聴く」姿

勢が大切であること。さらに、相手が話しやすい態度や雰囲気について、聴く側がやってはいけないこと、さらに適切な相づちの打ち方など、話す側と聴く側の両者の立場に立って理解を深めました。

また「みる」については、「観る」と「見る」の違いについて、や、表情や視線など表向きの動きと、言葉や表情には表れない心の動きにも目を向けることなどを学びました。

この講習会は以前、「HARPP講習会」として行われてきたものを発展させたもので、本島学生担当委員会としては今後継続的に実施し、教会活動の一助にしていく予定です。

## 青年会ひのきしん隊

青年会本島分会(片山秀明委員長)では、9月2日より24日まで、おやさとふしん青年会ひのきしん隊第846回隊に5名入隊し、ひのきしんに伏せ込みました。

時あたかも9月1日、青年会長様である中山大亮様と布恵様のご結婚式に立て合い、慶びの句にひのきしん隊がスタートしました。

期間中は好天に恵まれ、9月17日は台風18号が夜間に通過したおかげで、全日出動することができました。

作業は結婚披露宴会場の撤収や蛇谷山での木出し作業などを行い、病気や怪我なく勤め終えました。

来年は青年会創立100周年という大きな節目を迎えるに当たり、本島分会では大勢の入隊を目指して、今後の活動が期待されます。

なお今回は、東本分会、秩父分会と合同で第3班に編成されました。

## 秋季霊祭役割

雅楽奉仕者 文岡育則・雲庵春彦・大矢万三・片山直明・長尾海和・鎌田康典

祭主	大教会長	てをどり前半	てをどり後半
指図方	片山 勲	老木邦光	平井真治郎
扨者	寺本教生	西山道教	肥後 章
賛者	篠原不王	吉田晴雄	大矢万三
献饌長	岩橋竜造	大教会長	向所隆文
伝 供	片山好治	片山 勲	大上道徳
庵道延	井上哲・雲	岩橋慶三	後藤正治
永山晴明	吉田晴雄	会長夫人	向所暉美子
平井真治郎	向所隆	片山やすゑ	梅木澄代
文・大上道徳	井上	長尾澄子	上田敬子
力・後藤正治	肥後章	井上 哲	上山康雄
鎌田典夫	山下英久	高島清弘	柴田久生
上山康雄	滑川善久	片山好治	井上 力
須崎晴道	橋口徹	寺本教生	長門淳一
柴田久生		須崎晴道	須崎晴道
		滑川善久	滑川善久
		宮路實子	宮路實子
		向所千夏	向所千夏
		宮路そのよ	宮路そのよ



全教一斉にをいかなデー  
9月28日 JR 奈良駅前にて

後継者講習会受講者名簿

■第1次(8月28日~30日)

- ▼本千代△御代田寛子 ▼本千恵△齋藤義彦 ▼本花△奥村ちはる ▼本水島△山下裕佳 ▼本亀△長尾善絵 ▼与島△岡崎八郎 ▼神峰△橋口徹△川原浩二△橋口伸△橋口ともよ△富山雅代△棚原友子 ▼霊峰△宮路さとえ△宮路ゆかり ▼鶴峰△尾関結秀△高島忠義△高島直道 ▼マウイ△久尾将太 【計18名】

■第2次(9月5日~7日)

- ▼本九台△原口いつほ ▼赤峰△安東和弘 ▼大雄峰△渡部隆博 ▼大隅聖峰△宮路日出男△宮路道興△宮路聖子△宮路かおり△宮路麻衣△村上佳延 ▼大英峰△時久理恵△時久英恵 【計11名】

■第3次(9月8日~10日)

- ▼同朋△新見寿明 ▼安藝本中△池田ゆりえ ▼本千嘉△佐志晃文 ▼赤峰△向所慶太△向所未奈△原田大碩 ▼栄

東峰△川村美穂 ▼倉峰△上山真知子△上山美音 ▼肥後八峰△肥後京子 【計10名】

■第5次(9月22日~24日)

- ▼本太△加々美一樹△加々美綾△加々美晴香 ▼本勇△井上周平 ▼大雄峰△渡部友治 ▼大駿峰△鈴木清貴△飯島好恵 【計7名】



日程(本島大教会割当次数)

立教180年(平成29年)

- 第6次 10月7日(土) ~ 9日(祝)
- 第7次 10月13日(金) ~ 15日(日)
- 第9次 11月3日(祝) ~ 5日(日)
- 第10次 11月10日(金) ~ 12日(日)
- 第11次 11月17日(金) ~ 19日(日)
- 第13次 12月1日(金) ~ 3日(日)
- 第15次 12月15日(金) ~ 17日(日)

立教181年(平成30年)

- 第16次 1月16日(火) ~ 18日(木)
- 第17次 1月19日(金) ~ 21日(日)
- 第18次 1月30日(火) ~ 2月1日(木)
- 第19次 2月2日(金) ~ 4日(日)
- 第20次 2月10日(土) ~ 12日(祝)
- 第21次 2月16日(金) ~ 18日(日)
- 第23次 3月14日(水) ~ 16日(金)
- 第24次 3月17日(土) ~ 19日(月)
- 第25次 3月22日(木) ~ 24日(土)



役に立たん話

「最後の別科生が本島へ参拝に来るとき、会長さんは本島の魚をたくさん食べさせてやりたいと、甲生で地引き網をしたんや。魚がぎょうさん獲れて、わしは四斗樽を抱えて何度も教会を往復した。」

はつきりした裏付けの資料はないとしながら、寺本管一郎翁はそんな思い出話を聞かせてくれた。

最後の別科生とは、昭和16年春に卒業した天理教校別科第65期生のことだろう。当時は戦争の最中、昭和13年に国家総動員法が制定されて戦時体制化となり、昭和15年は本島が大教会に陞級したものの、教勢に著しくブレーキがかかった。日本中に「賢沢は敵だ!」のスローガンが掲げられた。本島通信は休刊したので記録は残っていない。片山好造(かたやまよしひさ)老会長様の晩年、「魚をたくさん食べさせてやりたい」という思いに、篤い親心が迫ってくるようだ。

当時10歳だった管一郎少年が見たのは、地引き網を曳く網作りの光景だった。

片山新六先生(当時55歳、教会の牛の世話をしていたので、モウおっちゃんと呼んでいた)と渥美宗太郎先生(当時46歳)が、3本の縄で繩をスルスルとなう。出来上がった縄がみるみる山になっていくのが見事だった。次にその縄を3本、反対向きになうのは岩橋健太郎先生(当時39歳)。この3本よった縄を更に3本、今度は綱打ちの器械で作りに上げていく。出来上がった綱は親指より二回り太く、長さも数百メートルになった。

地引き網ではマダイを狙ったようだが、ほとんどがイワシやチヌ(クロダイ)だった。

このときの綱と網は、その後旧教会の本家の奥、食堂上の物置に長く保管されていた。

「綱打ちの器械はお宮さん(徳玉神社)の倉庫にしまってたが、今もあつたら写真だけでもほしい」と管一郎翁は懐かしむ。76年前の木製器械、少年が目を見開いて眺めた器械を私も見たいものだ。



※写真は戦前の甲生浜の様子。本文とは関係ありません。

(向所)

**事情はいづ**

(立教180年9月26日)

**肥後八峰分教会**

任命願

新任教会長 肥後良子

臨時祭典願

就任奉祭 立教180年12月10日

**おさびげの理拝戴**

(立教180年8月分)

▼雄福峰△山寄潤 [計1名]

**三日講習会履修者**

(立教180年8月開催分)

■三日講習会I履修者

大駿峰1、新信峰1、[計2名]

(立教180年9月開催分)

■三日講習会II履修者

本盛濱1、肥後八峰2 [計3名]

**おさびげお取り次ぎ報告**

(立教180年9月22日)

提出教会 28教会

報告数 1、439回

累計 12、820回

※前年同月累計差 2、669回減

**をびや許し**

(立教180年8月分)

▼本都△石田麗 ▼本米浜△

木村むつみ ▼本花△奥村め

ぐみ ▼馬木尾△米津理恵

[計4名]

**証拠守り下附**

(立教180年8月分)

与島1 [計1名]

**ろくち会**(立教180年9月分)

▼本島△片山幹太・片山かおり・

香葉子・幹太郎・好次・昇太△長

尾真実・幸太△片山秀明△藤山さ

ちよ ▼樺太分教会 ▼本樺△大

上ほの香・はる香・太吉 ▼本浜

△片山清枝・正枝・誠 ▼本攝△

片山元一・直道・菜々 ▼崇徳分

教会△高垣さとえ ▼ポートラン

ド教会△片山和信・陽子・昇慶・

章次 ▼エヌ・シー教会

ご芳志に厚くお礼申し上げます

**少年会本島団**(岩橋竜造団

長)本年こともおちばがえり

の本島大教会帰参者総数は、

1047名昨年より261名減、

9月26日現在)でした。この

うち少年会員473名。

**大教会長動向**

▼10月(予定)▲

9月29日～10月12日、

アメリカ巡教

1日、ミッドウエスト教会

大祭巡教

8日、サウザンパシフィック

教会大祭巡教

岡崎史朗一年祭執行

13日、第7次後継者講習会

14日、後継者講習会講義

15日、与島分教会大祭巡教

創立100周年記念祭

18日、本福分教会月次祭巡教

22日、大教会秋季大祭執行

24日、修養科門出まなび

26日、本年秋季大祭参拝

御成婚慶びの集い

27日、天理教青年会総会参加

かなめ会

28日、全教野球大会

29日、本九肥分教会

会長就任奉告祭

30日、本部神殿奉仕当番

以上



**統計**(8月1日～31日)

教会名	初席	中席	妻の座	修料	教人講習	検定講習	教会名	初席	中席	妻の座	修料	教人講習	検定講習	にをいがけ名簿提出教会(9月)			
														本島	撮泉	倉峰	9
本島	1	1					赤峰	2						本山	6	栄峰	50
本静	1						吉峰				1			本室	1	大雄	46
本濱					1		倉峰	2	1					本府	2	雄福	50
本米		2					栄峰	1	1					渋谷	8	雄山	13
本千							雄峰	3	3					御幸	7	栄森	16
本平							大福	1	1	1	2			本桶	3	栄星	1
本太	2	1					雄星	1	1					代々	1	栄東	20
本朋	2						実峰	1	1					本萬	2	霊峰	23
本中	1						大隅		1					本都	3	實峰	34
本島		1					大英	1	1					本京	15	吉松	68
本倉		1					大新	1	1					本草	1	鶴峰	101
本山	1						鶴善	1	1					本日	10	仙峰	13
本港		1					仙峰	1	1					本千	41		
本嘉	1						合計	15	19	1	4	1	0	計36教会		828名	



**世話人 宮森与一郎先生ご巡教**  
【本島大教会】

大教会秋季大祭(10月22日)に世話人・宮森与一郎先生のご巡教を頂きます。ご到着は10月21日本島港16:20着、ご出発は翌22日本島港14:15発。

**本部秋季大祭**  
【教会本部】

●日時：10月26日(木)午前8時執行

**御成婚慶びの集い**  
【総務部】

中山大亮様 布恵様「御成婚慶びの集い」  
●日時：10月26日(木)夕づとめ後  
●場所：東礼拝場前からおやさとやかた真東棟前広場まで。  
●記念品として、教会に「盃」、帰参者には「ハンカチ」が下附されます。  
※ なお、記念品ハンカチはおみやげではありません。「御成婚慶びの集い」に参集下さる方への下附となります。  
※ 詰所への帰参申込みは、10月16日までお願いします。

**第93回天理教青年会総会**  
【青年会】

●式典：10月27日(金)午前10時  
●会場：本部中庭

**全教野球大会**  
【本島野球部】

第44回全教野球大会  
●大会期間：10月28日より30日  
●初戦：10月28日午前10時20分よりC白川グラウンド  
本島大教会 VS 東愛大教会  
※ 応援よろしくお願ひします。

**人材育成講習会**  
【教会長子弟育成委員会】

●日時：10月25日(水) 午後7時より8時30分  
●会場：本島詰所4階講堂  
●講師：井筒梅夫先生(本部員・布教部長・芦津大教会長)  
●受講対象：教会長夫妻、布教所長夫妻、後継者夫妻、ようぼく、信者、教会長子弟育成者研修会受講者  
●内容：講話(約1時間)質疑応答  
●携行品：筆記用具  
※ おかえり講話ではありませんので、ご承知ください。

**教会教費金納入について**  
【会計部】

●本部教会教費金は、年額1万5千円を10月26日まで本部会計へお納めください。

**青年会本島分会総会**  
【青年会本島分会】

●日時：11月23日(祝)  
●会場：本島大教会

**少年会本部研修員募集**  
【少年会本部】

将来の伝道を担い、活躍する人材を育成  
●募集人数：50名  
●出願期間：立教180年9月26日～立教181年2月28日(必着)  
●研修期間：立教181年3月26日～立教182年3月26日  
●出願資格：①団長が推薦し、直属教会長が認めた者。②ようぼく(研修期間中におさづけの理を拝戴する者も可)  
●詳細は少年会(岩橋竜造団長)まで。

**10月ひのきしん派遣依頼**  
【総務部】

〈大教会・炊事ひのきしん〉  
●期間：10月21日～22日  
●派遣教会：樺太①、本承徳①、本九②  
  
〈秋季大祭翌日帰参者世話取りひのきしん〉  
●集合：10月24日午後8時、写真の間  
●解散：10月27日午前8時、写真の間  
●派遣教会：樺太①、本樺①、渋谷①、本京①、本浜①、仁徳①、張家口①、那波①、本山海①、本中國①、本亀①、崇徳①、与島①、本新田①、赤峰②

**秋のほんじま・よかナイト!**  
【よかナイト!実行委員会】

おぢば秋の夜長を、お笑いで過ごそう!  
●日時：11月25日(土)午後7時より  
●会場：本島詰所4階講堂  
●内容：有志によるお笑い、ウルトラクイズ、フォトコンテスト、大喜利など  
●現在、出演者を募集しています。  
●お問合せは、担当(向所隆文)まで

**フォトコンテスト作品募集**  
【本島通信】

フォトコンテストR180 作品募集  
●テーマ：「おぢばをめぐって」  
●応募締切：立教180年11月25日(土) 午後5時(必着)  
●応募資格：どなたでも応募できます。  
※ ただし「秋のほんじま・よかナイト!」(11月25日午後7時より本島詰所4階講堂)の審査発表会に参加が必須。  
●応募方法：お手持ちのスマートフォンで撮影したものを「photo@honjima.com」にメール添付して送るか、デジタルカメラで撮影したものを当日詰所に直接データ持ち込み。応募点数は問いません。  
●応募作品の規格  
テーマ「おぢばをめぐって」  
・写真はおぢばでの写真に限らず、おぢばがえりに関連した内容でもOK(おぢばがえりの準備風景など)  
・写真はスマートフォンまたはデジタルカメラで撮影したjpeg形式に限る。(プリントしたものは不可)  
・写真は未発表のものに限る。  
・加工・合成・組写真は不可。  
●審査結果発表  
「秋のほんじま・よかナイト!」にて発表  
●入賞：グランプリ1名、入選若干名  
※ 入賞者には記念品を贈呈します  
●なお、応募いただいた写真は、応募者の許諾なく本島通信やWEBサイトで使用することがあります。  
●応募作品の送付およびお問い合わせ先  
本島通信編集室 フォトコンテスト係  
〒632-0093 天理市指柳町270-1 本島詰所(担当：向所隆文)  
phone：090-8764-5615  
email：photo@honjima.com